

金鷹山

平成27年(2015)11月1日発行
通巻第3号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

若宮八幡社 金鷹山 検索
神社公式ホームページ
立ち上げました。
御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

緊急報告

若宮八幡社例大祭は、本年から12月第1土・日曜日に変更となります

平成27年例大祭
12月5日(土) 10時/お下り 11時/長寿交通安全祈願祭 13時/みさき神楽
12月6日(日) 11時/斗初穂奉納祭 15時/お上り



楽の市



御田植祭

平成27年度 若宮八幡社及び兼務神社 責任役員・総代名簿

神社名	祭神	鎮座地	役職	氏名
若宮八幡社	大雀命 菟道稚郎子 宇礼姫 久礼姫	杵築市大字宮司336	代表役員	紀田 兼宣
			責任役員	森 昭
			責任役員	中山 休
			総代	門 熙
			総代	本多 泰久
			総代	衛藤 清孝
			総代	永留 忠男
			総代	河本 理宏
			総代	篠田 直人
			総代	三浦 源治
			楽師	毛利 重保
			楽師	川野 政信
			楽師	安倍 雄次
楽師	阿部 敬一			
	会 長	御田植保存会	手嶋 逸男	
	会 長	若宮楽保存会	小春 稔	
浜田社	大雀命 菟道稚郎子 宇礼姫、久礼姫	杵築市大字南杵築571	責任役員	須賀 正廣
			責任役員	清末 陽一
			責任役員	須賀日出夫
若八幡本社	大雀命 菟道稚郎子 宇礼姫、久礼姫	杵築市大字中1223	責任役員	秋吉 美則
			責任役員	吉崎 秀人
			責任役員	芝 洋三

神社名	祭神	鎮座地	役職	氏名
天満社	菅原大神他1柱	杵築市大字大内4460	責任役員	江藤 美利
			責任役員	岡田 敏昭
			責任役員	渡辺 久男
責布禰社	闇麗神	杵築市大字南杵築391	責任役員	川上 哲
			責任役員	上田 忠臣
神明社	天照大御神	杵築市大字杵築324	責任役員	麻生 友一
			責任役員	藤原 栄
			責任役員	阿部 良男
船部若宮八幡社	大雀命 菟道稚郎子	杵築市大字船部765	責任役員	阿部 勝彦
			責任役員	阿部 俊治
			責任役員	吉田 貞美
大片平若宮八幡社	大雀命	杵築市大字大片平768	責任役員	阿部 武彦
			責任役員	高山 浩
八幡社	応神天皇	杵築市大字鴨川148	責任役員	小春 達夫
			責任役員	西 良光
			責任役員	西 政光
八坂神社	菅原大神 素盞鳴尊	杵築市大字鴨川1405	責任役員	秋吉 隆
			責任役員	河野 生男
			責任役員	麻植 博文

順不同 敬称略

※兼務神社とは、若宮八幡社(本務)紀田宮司が兼務奉仕する市内各所の鎮守様です

▲あらゆる物事は、一方向からのみの考えで納得することなく、多方面から俯瞰するべきである。▲二昨年のNHK大河ドラマは綾瀬はるかさんが主演を務めた「八重の桜」であった。この年は東日本大震災復興というテーマもあり、幕末を会津藩側から見たドラマであった。▲一方、本年は井上真央さんが主演を務める「花燃ゆ」であり、逆に長州藩側から見た幕末を捉えている。▲同じ国の中で、しかも同じ幕末という時代に於いて、単に勝者と敗者という枠組みで考えては、この国の歴史を本当の意味で学んだことにはならない。▲3Dプリンターという、一時賛否両論のあった機器が記憶にあると思うが、これはある物体を多方面からデータを取り込み、同じ物体をソックリ模して創り上げる代物である。▲我々も、ある意味で毎日の生活を送るうえで、3Dプリンターの機能面を意識して行動していかなくてはならないのでないか。▲現在の日本に山積する諸問題である、原発問題に始まり、安全保障・憲法改正・戦後七十年談話また来たる東京オリンピックの新国立競技場案件など、あらゆる出来事や問題に直面したとき、一つの方向性や思想のみで判断することは、非常に問題があり、国の指針を見誤ることにはならないか。▲そこには右も左も関係なく、多方面からの視点が必要不可欠であり、時には意見・思想が全く異なる人の話も咀嚼して受け入れる大らかさが、これからの日本人には求められているような気がしてならない。▲大東亜戦争終結七十年という、人間でいえば古希の年に当たり、この国の行方を案ぜずには居られない今日この頃である。

巻頭言
第三十四代宮司 紀田兼宣
3Dプリンターと
この国の行く末



社殿



社殿内部

金鷹山 若宮八幡社式年 壺千参拾年記念事業完遂

京都 石清水八幡宮から勧請し、瀬戸内海を西進 浜田社が鎮座されしより壺千有余年を寿ぐ嘉年

この度、氏子崇敬者の皆様方のご支援により若宮八幡社の式年事業が完遂を見ましたことは、洵に感謝の念に堪えません。

茲に社報金鷹山第3号の紙面をお借りしまして、今までの経緯報告と、これからの第2期に向けた展望を特集記事として掲載させて戴き、皆様から更に愛される神社づくりを目指して参りたいと思います。

どうぞ氏子崇敬者の皆様が大神様の御神徳をお受けになり、幸せでありますように……。

まずは実行委員長から御礼のご挨拶から申し上げます。

実行委員長御礼のご挨拶

若宮八幡社責任役員 森 昭

お陰さまをもちまして、金鷹山若宮八幡社の記念事業が茲に完遂致しました。

ご存知のように、若宮八幡社は寛和元年(西暦985年)、今から丁度二〇三〇年前という大変気の遠くなるような遙か昔、平安時代に京都男山に鎮座される石清水八幡宮に神職として奉職していた初代宮司 紀兼貞朝臣(きのかねさだあそん)が、四柱の神々を勧請申し上げ、瀬戸内海を西

進し、現在の浜田社に到着されたことにその歴史は端を発します。それから三度の御遷座を経て、南北朝時代に現在の金鷹山に鎮座されたのであります。

このような嘉年を迎えるに当たり関係者一同は、何度も何度も会合を行い、慎重なる審議を経て記念事業を行うことを決しました。

近年の記録を見ても、御鎮座九八〇年また壺千年にも当時の氏子崇敬者により、奉賛活動が展開され事業の完遂を見ておりました。

今回は当時と社会情勢も大きく変貌し、神社を取り巻く環境も推移する中での記念事業ということもあり、平成の世の中の流れに沿う形での奉賛活動を行うことが柱として決定されました。

まず神社総代と地元区長さん(評議員)との合同会議を行い、記念事業実行委員会が組織編成され、図らずも私が実行委員長を務めさせて戴くことで、この事業も産声をあげたのであります。

それからは、区長さんを中心とする奉賛活動を展開し、その甲斐あつて当初の予算を大きく上回る奉賛寄付金をお寄せ戴き、この機会に様々な境内整備が行われましたことは、洵に有難き極みであると思ひます。

引き続き若宮八幡社をご崇敬賜り、氏子の皆様に宏遠なるご神徳を戴かれますよう祈念申し上げ、茲に社報誌面をお借りして、甚だ略儀ながら皆様方の篤志に対する御礼のご挨拶を申し上げます。本当に有難うございました。

若宮八幡社 御鎮座壺千参拾年祭奉祝記念事業特別会計 決算途中報告

○収入の部	予算額	決算額	増減	備考欄
1, 繰入金A	4,000,000	4,000,000	0	斗初穂特別会計から繰り入れ
2, 繰入金B	2,000,000	2,007,634	7,634	若宮八幡社定期預金から繰り入れ
3, 紀田家基金	3,500,000	4,295,000	795,000	紀田宮司家及び親族にて基金を募る
4, 補助金			0	杵築市文化財としての助成金
5, 助成金	50,000	0	▲ 50,000	全国八幡連合会[宇佐神宮・石清水八幡宮]
6, 篤志奉賛金	5,000,000	6,255,100	1,255,100	若宮八幡社の社頭他で篤志家からの奉賛金
7, 玉串料	250,000	0	▲ 250,000	記念大祭齋行にあたり神前に奉奠
8, 雑収入	200,000	400	▲ 199,600	預金利子,上記に属さない収入
9, 氏子神社費			0	
収入合計	15,000,000	16,558,134	1,558,134	
○支出の部	予算額	決算額	増減	備考欄
1, 祭典費	300,000	0	300,000	記念大祭[神饌費・直会費・ほか]
2, 工事関係費	13,400,000	13,423,169	▲ 23,169	下記のABCの合計金額
A,本殿,随神門修繕工事	10,700,000	11,066,005	▲ 366,005	(尙藤原建築に支払う工事費
B,随神像修復工事	1,700,000	1,609,200	90,800	如法(河本総代担当)に支払う工事費
C,その他予備工事費	1,000,000	747,964	252,036	上記のABに属さない工事に関する支出
3, 調度装飾費			0	本殿内の装飾品(紀田宮司奉納)
4, 記念品費	500,000	0	500,000	奉賛者に対する記念品
5, 事務雑費	200,000	204,261	▲ 4,261	趣意書・領収書・郵便代・振込手数料ほか
6, 予備費	600,000	0	600,000	款項目流用のために設ける
支出合計	15,000,000	13,627,430	1,372,570	

記念事業実行委員会

若宮八幡社代表役員	宮 司	紀田 兼宣
実行委員長	責任役員	森 昭
実行副委員長	責任役員	中山 休
実行副委員長	杵築地区	中野 昭夫
実行副委員長	北杵築地区	上田 重毅
実行委員	総 代	門 照
実行委員	総 代	本多 泰久
実行委員	総 代	衛藤 清孝
実行委員	総 代	永留 忠男
実行委員	総 代	河本 理宏
実行委員	総 代	篠田 直人
実行委員	総 代	三浦 源治
実行委員	杵築地区・北杵築地区区長	

【左記 決算途中報告補足説明】

- ・平成27年9月3日現在の途中経過です(最終決算報告は平成28年度評議員会にて)
- ・記念大祭は11月21日新嘗祭に併せて齋行
- ・残務と思われる収支予想
収入→記念大祭での玉串料
支出→記念大祭での神饌・直会費ほか
奉賛者への記念品・拝殿掲示芳名板
若宮八幡社由緒書き(4000部作成)
- ・第2期は御鎮座1050年祭(平成47年度)計画



浜田社

金鷹山 若宮八幡社の由緒について

人皇第六十五代花山天皇の御宇、寛和元年(西暦九八五年)十二月、従五位下紀兼貞朝臣が勅宣を奉じて京都石清水八幡宮四柱の御尊像を守護し奉り、この豊後国八坂郷(現在の浜田社)に下向して御鎮座されたことにまで遡ります。

元来、この八坂郷は宇佐神宮の神領に属していましたが、貞観の頃より石清水八幡宮の神領となりました。しかし京都からは遠方であるし、海路暴風・海賊などの災いも多く、御貢物の輸送もままならない有様でした。ここに道中の海路安全と神領地の五穀豊穡を祈念し、八幡大神の若宮即ち大雀命(おおさざきのみこと)・菟道稚郎子(うじのわきいらつこ)・宇礼姫(うれひめ)・久礼姫(くれひめ)の四柱の御尊像を白檀木に奉彫され、延喜十四年(西暦九一八年)仁和寺で開眼供養の後、これを京都男山の石清水八幡宮の神殿に奉安せられました。若宮八幡社は即ち、この四柱の御尊像を奉遷申し上げたもので、今なお千有余年の御神威をそのままに、御本殿の奥深くに鎮座される神社であります。

その後、天喜五年(西暦一〇五七年)三月生地村岳に、承安三年(西暦二七三年)九月中村に、そして嘉暦元年(西暦三三六年)十一月現社地(金鷹山の聖地)に御遷座申し上げ、明治六年郷社に、大正十年に県社に御列格になりました。

御鎮座壹千参拾年記念事業 経過報告

この度の御鎮座一〇三〇年記念事業は平成二十四年の暮れ若宮八幡社宮司と禰宜が森総代長にご相談申し上げたことから開始されました。翌平成二十五年五月二十二日に評議員会(区長会長さんへの報告会)で初めて神社側から大綱説明を行いました承されました。その後は若宮八幡社総代会を幾度となく開催し、慎重審議を重ね、平成二十六年四月に杵築市内の建設関係3業者に現場説明会及び見積り合わせを行い、平成二十六年五月二十二日の評議員会で審議の結果、地元宮司区の藤原建築に社殿普請の施工につき発注することが決せられ、八月十一日に契約書を手交しました。九月十五日付 神社本庁に『境内地主要建物の模様替え』の申請を提出、またこの機会に随神様も修繕することとなり、国見の如法様に発注致しました。更に十一月二十四日の新嘗祭(勤労感謝祭)にて、一〇三〇年記念事業募金概要を評議員会でご報告説明して、年末年始にかけての募金活動が開始されました。

十二月十九日付 神社本庁より、『境内地主要建物の模様替え』につき承認を賜り、翌平成二十七年一月七日に御本殿にて奉告祭及び清祓を斎行。翌八日から藤原建築が着工。三月六日に国見の如法様から修繕なった随神様が目出度くお帰りになり、最終的に芳名板・記念品調製などを経て、十一月二十一日の新嘗祭(勤労感謝祭)に記念事業完遂奉告祭を取り納めて全ての事業が茲に完了を見た次第であります。



随神門



随神像

今回の事業概要(第二期)と 次回(第二期一〇五〇年祭)の事業計画

今回の事業は第一期(二〇三〇年祭)として左記の事業を行いました。

- ① 御社殿・随神門・手水舎の雨漏り対策工事(宮司 藤原建築施工)
- ② 随神様の修繕(国見 如法施工)
- ③ 公式ホームページの開設(『金鷹山』で検索できます)
- ④ 社報『金鷹山』(今秋第3号)及び若宮八幡社由緒書(今秋)の刊行
- ⑤ 元宮(浜田社)への御神幸祭の斎行・十二月二十日に取り納める

尚、第二期として二〇五〇年祭記念事業を左記に計画しております。

- ① 若宮八幡社境内地の整備(金鷹山の整備)
 - ② 『仮称・若宮八幡社誌』の刊行出版(地元有識者による編纂委員)
 - ③ 旧牛馬市に替わる神賑行事の復興
 - ④ 御神幸祭に使用する衣装などの補修新調
 - ⑤ 『仮称・若宮文化会』(地域文化伝承の交流)の開設
 - ⑥ 御田植祭(四月六日)・仲秋祭楽の市(九月中旬)・年田神楽の保存
 - ⑦ 若宮八幡社への誘導大看板の設置(社頭掲示板の設置)
 - ⑧ 祖霊殿(開運祖霊講)の建立
 - ⑨ 御鎮座二〇五〇年奉祝大祭の斎行
- 子供さんやお孫さんの代にまで関わりますので、どうぞ末永く若宮八幡社を護持戴きますよう重ねて懇願申し上げます。

年間祭事と顕彰のご報告

大分県無形民俗文化財 御田植祭・若宮楽の市 表彰される

年間祭事及び顕彰のご報告を致します。四月六日(月)には、秋の五穀豊穰と氏子崇敬者の安寧を祈念して、「春季大祭・御田植祭」が斎行されました。

午前十一時御神前に於いて若宮八幡社の神様に神事を報告、可愛い巫女さんの神楽舞を奉納。午後二時から本殿前の齋庭で御田植祭が執り行われました。

中津屋地区の方を中心とする「御田植保存会」の皆様方による神事奉納で、秋の稔りもたくさん収穫出来ることでしょう。

九月十三日(日)には、「仲秋祭・楽の市」が斎行されました。やはり午前十二時巫女さんの神楽舞の奉納神事。午後二時から「若宮楽保存会」により、三の鳥居を出発して、本殿前の齋庭で楽の市が執り行われました。

「御田植祭」と「若宮楽の市」はそれぞれ大分県無形民俗文化財に指定されており、永年に亘り若宮八幡社の神事に奉納戴いておりますことに感謝の意を表し、この度大分県神社庁より感謝状の贈呈がありました。

去る八月二十七日(木)別府市杉乃井ホテルで開催された国民精神昂揚研修会に於いて、感謝状の贈呈が行われ、九月十三日(日)



表彰

仲秋祭に於いて、若宮八幡社に奉告申し上げ、御田植保存会会長手嶋逸男氏、若宮楽保存会会長小春稔氏にそれぞれ伝達式を行いました。感謝状の伝達が行われました。

それぞれの奉納団体様に於かれましては、洵に慶賀の至りでありますと共に、引き続き若宮八幡社の神事護持運営のためにご尽瘁を賜りますようお願い致します。年間祭事のご報告方々、大分県神社庁表彰伝達式のご報告も併せて行わせて戴きました。

また左記の二名の方の報告も行われました。
・楽の市 草鞋 三十足
鴨川在住 西豊之輔さま
富坂在住 門熙さま(会計総代)
洵におめでとうございました。



御田植祭



仲秋祭

全国八幡宮の総本山 宇佐神宮ご紹介 十月六日に十年に一度の勅祭「臨時奉幣祭」斎行される

御祭神

- 一之御殿 八幡大神(はちまんおおかみ)
- 二之御殿 比売大神(ひめおおかみ)
- 三之御殿 神功皇后(じんぐうこうごう)

八幡様は、古くより多くの人々に親しまれ、お祀りされて来られました。全国約十一万の神社のうち、八幡様が最も多く、四万六〇〇社のお社が鎮座されます。宇佐神宮さまは、その八幡様の総本宮でいらつしやいます。

御祭神である八幡大神は、応神天皇の御神霊で、欽明天皇の御宇(西暦五七一年)に初めて宇佐の地に示顕になられたと言われている。更に神龜二年(西暦七二五年)、現在の地に御殿を造立し、八幡大神をお祀りされました。これが宇佐神宮さまの創建です。

宇佐の地は、畿内や出雲と同様に早くから開けたところで、神代に比売大神が宇佐嶋にご降臨されたと『日本書紀』に記されております。八幡大神が祀られた六年後の天平三年(西暦七三二年)に、神託により二之御殿が造立され、宇佐の国造は、比売大神をお祀りしました。

三之御殿は神託により、弘仁十四年(西暦八三三年)に造立され、応神天皇の御母である神功皇后をお祀りしております。神功皇后は母神として神人交歓・安産・

教育等の守護をされており、その御威徳が高く顕われております。

八幡大神の御神徳は強く顕現し、三殿一徳の御神威は奈良県東大寺建立の協力や勅使・和氣清麻呂公に国の在り方を正してゆく神教を賜ったことで特に有名です。

平成二十七年十月六日(火)には、天皇陛下の御使者である勅使が参向され、天皇陛下よりのお供え物である幣帛を奉る宇佐神宮の最重儀「臨時奉幣祭(勅祭)」が古式に則り斎行されました。

定期的に勅使が御参向になる「勅祭社」は全国に十六社あり、その二社である宇佐神宮では、十年に一度天皇陛下御治定の日に斎行されます。

時の都が京都に定められて、宇佐神宮から八幡大神を勧請し鎮座されたのが、親神様でいらつしやる石清水八幡宮ですから、宇佐神宮は言うなれば祖神様ということになります。



若宮八幡社第三十三代宮司 紀田兼昭大人命長逝のご報告



若宮八幡社第三十三代宮司 紀田兼昭大人命は本年七月一日齢数え八十七歳をもちまして長逝致しました。茲に生前のご厚誼に対しまして厚く感謝申し上げます。大人命(うしみこと)は、昭

和四年一月二日第三十二代宮司 紀田兼量(かねかず)大人命とフミ刀自命(とじみこと)夫婦の八人兄弟の五番目としてこの世に生を受け、杵築高校・明治専門学校(現九州工業大学)を卒業後、一旦は神職とは違う職に就いておりましたが、國學院大學にて神職資格を得て、二十年ほど前に郷里杵築の地に帰り、若宮八幡社のお務めに励んでおりました。

翁お二人に宮司職をお願いしており、お二人のご尽力無しには今の若宮八幡社は有り得ず、洵に有難き極みであると言えます。今後は大人命の長男である紀田兼宣が若宮八幡社第三十三代宮司職として推挙され、この度奉告祭も斎行された次第であります。前宮司同様にご指導ご薫陶を賜りますようお願い申し上げます。ご報告のご挨拶まで申し上げます。

平成二十七年祭事暦・事業報告

一月一日	歳旦祭
一月七日	御鎮座七千参拾年奉告祭・清祓
三月八日	鴨川八坂神社祭
三月十五日	船部若宮八幡社祭
三月十八日	大片平若宮八幡社祭
三月二十一日	春季祖霊祭
四月三日	若八幡本社祭
四月六日	春季大祭・御田植祭
五月二日	評議員会
五月五日	速見支部旅行
六月五日	神明社祭
六月十四日	若八幡本社根付籠
六月二十八日	大内天満社根付籠
七月二四日	大内天満社夏祭
八月二七日	国民精神昂揚研修会(別府・二八日まで)
九月十三日	仲秋祭・楽の市
九月二十三日	秋季祖霊祭
九月二十七日	若八幡本社御願成就
九月二十九日	開運祖霊講研修旅行
十月四日	貴布禰社祭
十月二一日	若八幡本社秋季大祭
十一月二日	浜田社神輿渡御
十一月二日	新嘗祭並びに御鎮座七千参拾年奉祝大祭
十二月一日	若八幡本社例大祭
十二月二日	鴨川八坂神社祭
十二月二日	船部若宮八幡社祭
十二月二日	大片平若宮八幡社祭
十二月二日	大内天満社冬祭
十二月五日	若宮八幡社例大祭(十二月六日まで)
十二月十一日	浜田社祭
十二月二日	除夜祭

編集後記

紀田宮司のつぶやき

半世紀以上、人生の師と仰いだ父・宮司が長逝した。私的には感謝と悲しみが混在するが、感傷に浸ってばかりはいられない。その遺志を受け継ぎ、若宮八幡社の宮司として邁進することが恩返しになると確信する日々である。第2期御鎮座七千五拾年記念事業の歩みはもう始まっている。これからも氏子の皆様方のご指導を懇請するばかりであります。(宣)